



▲ジョッキー仲間から祝福を受ける譲治さん(馬上)

最高のレースのために。  
寝る間を惜しんでの調教。

ベテランの譲治さんですが、レースに騎乗するだけではありません。深夜2時半から16頭ほどの調教を行い、馬や調教師、厩務員とコミュニ

ケーションを常に取りながら馬の調子を確認しています。「寝る間を惜しんでやっています」と笑いながらインタビュに答えてくれました。

目の前の1001勝を目ざしつつ、目標は大台の2000勝。

これからの目標を訊ねると「1001勝を目ざしつつ、大台の2000勝できるように頑張ります」と意気込みを話していただきました。ジョッキーの魅力「競馬ファンに夢を与える」と話す譲治さんは、昨年、騎手の名誉賞であるフェアプレー賞を受賞するなど、注目を集めています。※フェアプレー賞とは…制裁が少ないジョッキーに対して贈られる。反則をした場合、出場停止や罰金などの制裁が与えられる。

大きな、  
家族のサポート。

父親の清文さんは元ジョッキーとして、騎乗回数が1頭から2頭と増えて欲しいとレース後に反省会をするなど息子をサポートしてきました。清文さんは「どこの競馬場で誰の馬で勝つかはわからなかったが、私の牧場に馬を預けてくれたオー



**プロフィール**

和田譲治さん／昭和59年生まれ（37歳）。大丸小学校、大崎中学校を卒業。大崎中では陸上部の長距離選手。所属、東京都騎手会。現在、東京都騎手会長の重責を担っている。これまでの重賞実績は、地方重賞4勝。

ナーの馬で1000勝を果たし、嬉しかった」と話されました。母親の順子さんも、大怪我を乗り越え達成した1000勝を喜び、祝福しました。息子の成績を全て記録したノートは、2000勝へのカウントダウンが始まっています。

競馬ファンに夢を与えるため、譲治さんの不屈の闘志と努力で達成した1000勝。大台の2000勝を目ざしてこれからも挑戦は続きます・・・。



▲牧場で調教中の父、清文さん